

日ごろ考えていることや身の周りの出来事などを、500字程度にまとめて投稿してください。紙面の都合上、若干手直しさせていただくこともあります。あて先は広報広聴係(〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所企画調整課)です。

大通川が泣いている



大谷 龍吉 (砂押1)

昨年の夏は、全国的に水不足に悩まされた年でした。幸い、私たち市民は母なる信濃川と中ノ口川の恩恵で、給水制限も受けることもなく過ごすことができ、感謝しています。

その中ノ口川の支流のような大通川がゴミの不法投棄に泣いておられます。不法投棄をする人は、特定の一部の人たちでしょう。しかし、投棄されている場所は大通川周辺に十数カ所もあり、廃材、家具、電気器具、空き缶、空きびんなど雑多です。どうしてそんな所に捨てるのでしょうか。いつからそんな不道徳な市民が現れたのでしょうか。

決められた収集日に出すか、大型や多量の場合は、直接焼却場に持ち込めば、一〇〇%処理されるか、あるいは資源としてリサイクルされる時代です。また、全国的にも数少ないといわれている超近代的なグリーンタワーも、昨年の秋に完成し、稼働を開始しております。県内外からも多数の見学や

視察者が訪れ、大変注目されています。これ以上、大通川を泣かせ、悲しませないために、不法投棄をする人の猛反省を求めます。

望まれる行政の企画力・指導力の強化



佐野 久一 (大通南2)

近年、経済の国際化・グローバル化が急速に進展しており、その世界地図は日本を中心に塗り変わろうとしている。経済大国・日本への期待は経済支援だけではない。日本の文化・伝統を積極的に受け入れようとしている国々もある。日本は、この世界の潮流を素直に受け止め、自国の伝統芸能や歴史の遺産の継承・保存に努力しなければならぬ。

政府が発表した新公共投資基本計画(九十五年から十年間の公共投資規模六百三十兆円)では、生活環境・福祉・文化機能が柱となっている。公共投資だけで豊かな社会を築き上げられるものでないが、高度情報化社会そして高齢化社会の到来が必至である以上、周辺環境に配慮しつつ、かつ地域に密着した付加価値の高い社会資本整備

が望まれる。

田園都市白根では、農業の大規模化、生産性向上などの農業施策の実現なしに、社会資本整備のための用地取得はあり得ない。従って、二十一世紀に向けての農業ビジョンを確立した上で、将来必要となる社会資本整備のコンセンサスづくりが重要となる。これがすなわち、今後の行政の主要課題といっても過言ではなく、さらには行政力が問われるところでもある。

一、まちづくりへの取り組み  
都市景観は、そこに住む人々の個性や歴史・風土感がつくり出すといつてよい。だれの目にも美しく映る町並みや自然景観などの生活空間は、住む者に安らぎや潤いだけでなく、生きる活力も与える。

国道8号の一部都市景観には、道行く者のだれしもが目を覆いたくなる。白根市を初めて訪れた人々は何を感ずるだろうか。行政指導に限界があるのにもかかわらず、視覚を和らげる方策もないまま、市民のモラルに任せて放置するに

は忍びない。  
近年、都市景観を重要視する地方自治体が増えてきている。その多くは、安全性・快適性などの都市機能の追及にとどまらず、歴史・文化が薫るまちづくりを模索し始めている。すなわち、川船「甲運坊」の建造と川船による白根水上交通の再現、あるいは十七世紀の「旧

白根町」の復元など、白根を象徴する歴史的遺産を核とした「白根らしさ」が求められるのである。従って、行政指導の下で、市民の自発的な意識と行動による取り組みが大切であり、このことがすなわち「二十一世紀の魅力ある豊かな白根の創造」に結び付くのである。何はともあれ、機はずでに熟している。

二、交通ネットワークの再構築  
在来線の軌道幅幅により、新幹線乗り入れを可能にした山形新幹線の実現は、二十一世紀の鉄道像として、高く評価されている。評価の多くは、建設コストの軽減だけでなく、在来線の活性化も図れたことへの称賛である。

ところで、上越新幹線の場合は、旅客輸送量の増大や短時間での長距離移動の実現など、大きな成果を上げている反面、そこへの交通アクセス整備が十分でないために、利便性があまり実感できない地域が多いのも事実である。その最たるものとして白根市があげられる。とりわけ、市民の利便性を考えるとき、新潟交通電鉄の存在価値を疑いたくなる。つまり、この電鉄が新潟駅か白山駅に接続されていたら、通勤・通学の利便

だけでなく、沿線開発への期待も高まったであろうし、さらには近年の国道8号沿線での集中的な宅地開発をある程度分散できたのではないだろうか。現時点では、渋

滞が慢性化した国道8号の交通ウエイトを、少なからずも軽くする方策を考えるほか、成すすべはない。これは残念の一言に尽きる。二十一世紀の交通ネットワークの概念は、連続性・機能性・効率性がキーワードとされ、国道・高速道路・空港・港湾などを一体的・総合的に交通機能を発揮させ、一層の交通効率向上を図ることである。従って、現状から判断しても、交通ネットワークの再構築が急務であり、軌道を持つ新交通システムのの新設やバス路線網の充実など、公共交通機関を基本とした新たなネットワークづくりが望まれる。

それは、環境保全・省エネ対策・高齢化社会などを考慮したものでなければならぬ。特に高齢化社会では高齢ドライバーへの対応を余儀なくされ、必ずや車一辺倒からの脱皮が求められる。また、車中心の物流システムなどはJRの活用が必至となる。高齢化社会の未来映像では、高齢者の通院や買い物などの交通手段に、安全で快適な新交通システムを映し出す。さらに救急医療の必要がある場合は、各病院医師と白根救急センター(仮称)とが光ファイバーで通信を行い、迅速かつ適正な救急医療指示が得られるなど、救急医療の情報化・高度化が鮮明に映っているのである。

三、地球は病んでいる  
世界経済が二十四時間休むこと

市民文芸

俳句

店て茶を出すだけの用着膨れて 五十嵐寛吾  
石段に来て肩車七五三 知野信一郎  
年寄りにある豆叩き風といふ 成沢 素明  
妻植まじ泪夫藍妻の留守に咲く 山田 孝  
間引菜を揃へぞつくり根を落とす 樋口 トシ  
吐く息の霧の白さと混り合ふ 古川 綾  
夕時雨立ち去り難き夕時雨 和泉 伸子  
冬座敷金のなる木をどんと置く 五十嵐知恵子  
菊の香の真只中の菊を摘む 勝山 絢子  
あらがひしま別れ来し日短か 吉川八重子  
(以上大風会)  
茶の花ヘタ日もつとも深き刻 真島つぎえ  
灰色の空も三日や冬めきて 間島きよ子  
梨畑に鉄の音も冬めける 知野信一郎  
俺び寂びも遠き彼方や茶の咲いて 小野 義之  
茶の花や退院の日に薄化粧 小林富沙子  
冬めくや背をまるくして豆腐買う 小林 なお  
冬めくやカーテン越しの庭の景 塚本 静子  
炊煙を溜め裏木戸の冬めける 名古屋庄一  
北限の茶が咲き海の荒れてをり 間島 秀穂  
(以上かまつか新飯田俳句会)  
朝起きて出来る仕事のありがたさ 河内 勝哉

短歌

冬晴れの光まぶしき日本海 木川 久子  
翡翠色なす初春の海原  
外し置く夫の眼鏡に初春の朝光とどき虹の色頭つ 佐藤 ケイ  
静まりて山の神社にひれ伏せば のりとほがらに高くひびくか 出来島 幸子  
病むわれを気づかい電話くるる子の 声聞けばまた力わきくる 村山 和江  
湯に浸る心地のよさにうかびくる 句をつなぎつつ歌ひとつ成る 星 ハツノ  
(以上星世の会)  
老人とは思ひたかない仲間たち 青春を語り心はなやぐ 劍 淑子  
川 柳  
見つめ合う瞳にはまぶしい宿の朝 山宮 喬  
何んにもチャレンジ好きなら井の蛙 吉川 彰  
親ばなれしてからエラが張ってくる 今井 七郎  
勲章が届かぬ野辺に義兄の墓 織田 福治  
来年も海で逢う夏の夏帽子 織田 セツ  
雑煮鍋六党九派の味がする 大谷 龍吉  
野仏に誰がやったか野球帽 後藤 マサノ  
毒舌の夫も静かな老齡期 佐藤 トミノ  
接点は亡夫にしてる嫁姑 佐藤 ヨキ  
残り火を静かに燃やし老いてゆく 田村 恒夫  
新米のうまみに負けるグイエット 高橋祐四雄  
イチローの羽子板までがヒットする 中村 尚治  
素人のかくし撮り買週刊誌 西条 ムラ  
親指小指みんな明日も働く手 山岡 フミ  
(以上白根川柳文芸会)